

ボランティア活動報告

「復興大学 in 熊本」

2018年3月8日（木）から10日（土）の3日間、熊本県熊本市にて「復興大学 in 熊本」が開催されました。尚絅学院大からは3名の学生が参加し、2日目のシンポジウムではボランティアチーム TASKI の活動発表を行いました。

【1日目】

熊本に到着すると早速「熊本城」へ。熊本地震の影響で石垣の大半が崩れており、まだその瓦礫が残っている状態でした。天守閣には近づくことができませんでしたが、着々と復旧に向けて工事が進められているように感じました。



【2日目】

2日目は熊本市で開催された「復興大学 in 熊本」に参加しました。このシンポジウムは「熊本と宮城の復興を願って～宮城の大学間連携の試みを共有する～」をテーマに、「基調講演」、「復興大学の事例発表」、「パネルディスカッション」、「熊本・宮城の学生によるリレートーク」の4部構成で開催されました。



リレートークの部では東日本大震災の復興支援活動を行う宮城の学生と、熊本地震の復興支援活動を行う熊本の学生が各々の取り組みに関して発表し、情報共有を図りました。



尚絅学院大学ボランティアチーム TASKI は、東日本大震災の被災地の現状と、抱えている課題について「自分たちは今後なにができるのか」という問題提起をしながら発表を行いました。



夜には参加者全員による親睦会がありました。シンポジウムが終わっても、両県の学生が活動に対する思いを真剣に語り合う姿も見られるなど、たいへん実りのある交流会になりました！

【3日目】

最終日は益城町のテクノ仮設団地を訪問しました。テクノ仮設団地では熊本学園大学が毎週「おひさまカフェ」というボランティア活動を行っています。住民の皆さんとお話をしたり子供たちと鬼ごっこをして遊んだり、宮城の仮設住宅とはまた違った雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。



集会所での様子



名物の益城プリンもいただきました！

〈プログラムに参加した学生の感想〉

今回宮城と熊本の学生の発表を聞いて、地域の為に貢献しようとする熱い地元愛と、復興に対する思いが伝わってきました。熊本の学生の発表からは、「東日本大震災の教訓を活かすんだ！」という熱意が感じられましたし、宮城の学生の発表では、7年経った今でも「顔張る」(がんばる)という新たな言葉が生まれるほど、小さな変化に応じて活動を行っているのだと感じました。

また、復興を目指す上で学生の力が必要な場所がまだあるのではないかと、私たちに何ができるのか、今回の研修を通して考えさせられました。

(人間心理学科 4年 H・T)

私自身、県外で活動発表を行うのは初めての経験だったので、大きな緊張と責任を感じました。しかし、今まで自分たちがどのような思いで活動に取り組んできたのかを改めて振り返るきっかけになり、また、他大学の発表を聞いていくなかで刺激を受けた部分もありました。

今回学んだことを今後の活動に活かすとともに、より多くの方々に発信していきたいです。また、後輩の皆さんには是非このような研修に参加し、多くのことを学んでほしいと思います。

(人間心理学科 4年 C・S)



くまモンと記念撮影！
県内の学生同士でも交流を
深めることができました！



ライトアップされた夜の熊本城も
幻想的でした。

文：人間心理学科 4年 齋藤千愛
(連携交流課 ワークスタディスタッフ)